

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>学習・生活集団力を高め、学び認め合う心豊かな子どもの育成</p> <p>考える子(知性に富み、創造性豊かな子) 明るい子(明朗で、情操豊かな子) やりぬく子(自主性に富み、健康でたくましい子) 助け合う子(責任を重んじ、協力する子)</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>～特別支援教育の考え方を基盤にして～</p> <ol style="list-style-type: none"> 確かな学力の育成を図る。 基礎的な学力の向上に努める。 表現力を高め、学びあう力の育成に努める。 人権感覚豊かな人間関係づくりを推進する。 集団生活のルールを身につけ、安心感のある学校生活を推進する。 いじめ等の不合理に気づき、違いを認め合い、ともに解決しようとする子どもを育てる。 特別支援教育の充実を図る。 居場所としての学級・交流学級をつくる。 ・通常学級 - 個別の課題を踏まえた一斉指導 ・支援学級 - 「できる」を増やす指導・自立支援の取り組み 支援学級内での通級・交流学習の工夫
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国 国語・算数とも県平均と比べて正答率が低いです。 算数については基礎的な四則計算や分数の計算については一定の成果が見られたものの、活用問題については県平均より下回っています。 目的や意図に応じて、自分の考えを具体的に書くことに課題があります。</p> <p>県 社会については県平均と比べて、かなり高い結果でした。 国語、算数については県平均と比べて同程度でした。 理科については県平均と比べて下回る結果でした。 算数では自分の考えを説明したり表現したりすることに課題があります。 理科の基礎的な知識の定着に課題があります。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>あいさつをしようと意識している児童がだんだんと増えてきています。 地域の行事に参加していると回答した児童が県平均と比べて高い傾向です。 宿題をしている児童の割合が、県平均と比べて高いです。 自己肯定感や自己有用感を持つ児童が県平均に比べて低い傾向です。 進んで読書をする児童が県平均に比べて低い傾向にあります。 1日あたり3時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりする児童の割合が県平均より高いです。 「学校のきまりを守っていますか」という設問に対して肯定的な回答が県平均より低い傾向です。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>算数の勉強が好きと回答したり、算数で習ったことを生活の中で生かそうと意識している児童の割合が多いです。 算数の「数と計算」領域の基礎についてはある程度定着していますが、「数量関係」領域については定着が不十分です。 国語の「書くこと」領域の定着に課題があります。 国語・算数ともに記述式の問題に無回答率が高く、課題があります。 読書が好きと回答している児童の割合が低く課題があります。 宿題は比較的良好ですが、それ以外の家庭学習をする児童が少ない傾向です。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>基礎的な漢字力、計算力を向上させる取り組みを行います。(朝の活動、宿題等で反復練習をします。) 問題解決型の授業を推進し、思考力・判断力・表現力を伸ばす取り組みを行います。 落ち着いた学習環境作りのために、学習規律を整えていきます。 「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の仕方を指導していきます。 朝読書の時間の充実を図ります。</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>基礎学力(漢字力・計算力)については、単元ごとにミニプリントやテストを利用して学力の検証を行います。 授業の中で自分の考えを書いたり、説明したりする活動を積極的に取り入れます。(毎学期ミニアンケート) 学年の発達段階に応じて自主学習を取り入れていきます。(家庭学習の手引きの配布) 読書については朝の読書活動を充実させていきます。 家庭学習の重要性について理解・協力を得るため学級懇談での話題として取り上げていきます。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>国語、算数の正答率で県平均を上回る。 家庭学習をしている児童の割合の向上。 読書が好きと回答する児童の割合が県平均を上回る。 すべての授業に子どもの自主的な活動を取り入れる。</p>